

YAMANASHI  
DISCOVERY  
MAGAZINE

VOL.

17

2019

WINTER

山  
梨

て て

*teku-teku*

く く

| 特集 |

昇仙峡に  
広がる世界を探訪



山梨

てて  
Teku-Teku  
くく

『山梨てくてく』は  
歩く速さでじっくりと

山梨の魅力を紹介していきます。

山梨には昇仙峡をはじめ、たくさんの美しい渓谷があります。

かつて修験者が修行のために足を運び、

付近から産出された水晶の流通路にもなった昇仙峡。

今では、景勝地として美しい岩峰や滝が

四季折々の表情を見せ、訪れた人を魅了しています。

今回は昇仙峡の風景の中に息づく歴史や文化、

そして、この地の魅力を発信する人々の情熱に触れながら『てくてく』。

こんな山梨があったんだ、と思える発見や感動を

見つけていただけたと思います。



VOL. 17

CONTENTS

特集 | 昇仙峡に  
広がる世界を探訪

03 | 御岳昇仙峡

04 | 御岳昇仙峡の始まり

08 | 四季折々に移り変わる  
山梨の渓谷美

10 | 日本屈指の渓谷美  
昇仙峡を後世に伝えていくために

12 | 昇仙峡の自然に包まれて  
山梨の食を楽しむ癒やしのカフェ

14 | 伝統の技を受け継ぎ  
宝飾業界の発展に貢献したい

16 | 甲府駅(昇仙峡編)



teku-teku  
FEATURE

# 御岳昇仙峡

みたけ

文人墨客にも愛された  
日本を代表する渓谷美



▲昇 橋  
●眺望 覺 圓 峯



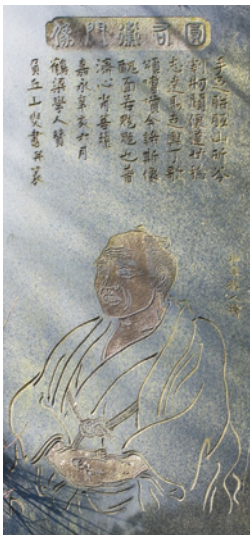
「仙嶽關路図」をもとに明治35(1902)年に発行された「御岳探勝案内」の覺円峰の図(山梨県立博物館蔵)

Teku-Teku  
FEATURE

# 御岳昇仙峡の 始まり

未開の渓谷。それは信仰の山に  
つながっていた

昇仙峡の奥に鎮座する奥秩父連峰の名峰・金峰山は、古来より山岳信仰の山として知られています。昇仙峡を登り詰めた地にあり、約2千年の歴史を有する甲府の金櫻神社が登拝口の一つであったため、道が開かれる前から、金峰山への参拝路(御岳道)として修験者が昇仙峡を訪れていたと考えられています。現在では景勝地として知られている昇仙峡も、かつては山深い地にひっそりと、その姿を隠すように存在していました。その美しさが世に知られ、やがて観光名所へと発展していったのは、江戸時代後期、地元の猪狩村で農業を営んでいた長田円右衛門らが新しい道を切り開いたことが始まりでした。



昇仙峡にある長田円右衛門の碑



苦難の末に、開削された新道は  
産業と観光の可能性も切り開いた

円右衛門が暮らしていた猪狩村など、昇仙峡の上流に位置する村では製炭が主な産業でした。当時、村人たちが炭やまきを甲府城下へ売りに行き、日用品などの買い物を済ませて村に戻るためには、未整備の山道を通らなければならず新しい道の開削が待ち望まれていました。そこで円右衛門が中心となり、天保5(1834)年に溪流沿いの新道開削に着手しました。しかし大きな岩盤などに阻まれる難工事となり、また途中、大飢饉に見舞われて中断を余儀なくされるなど、新道の開削は苦難の道のりでした。そして天保14(1843)年によく「御岳新道」は開通したのです。

山梨を代表する地場産業の一つに宝飾産業があります。甲府市を中心に宝飾産業が発展したのは、昇仙峡を含む甲府盆地の北側の山々から水晶が大量に産出したことに起因します。水晶は特に金峰山周辺に多くあり、昇仙峡の上流に位置する黒平村では盛んに採掘されていました。こうした産物の流通にも新道の恩恵があったと考えられます。そして何とんでも観光への影響は大きく、円右衛門と交遊のあった文人らが景勝地を描き、詩文を添えた「仙嶽關路図」が安政元(1854)年に発行されるなど、昇仙峡は観光地として広く知られるようになりました。



三枝雲岱「御嶽昇仙峽絵巻」(山梨県立博物館蔵) 金櫻神社と昇仙峡が描かれている



水晶の採掘の様子を復元した模型(左)と黒平で産出した水晶(右)  
(帝京大学やまなし伝統工芸館)





昇仙峡、その名の由来は  
謎に満ちている

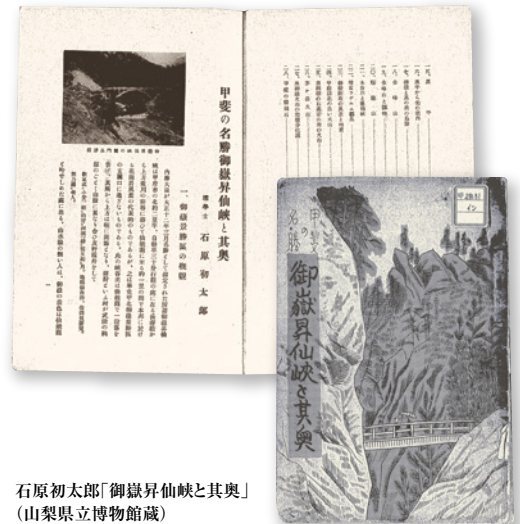
実は昇仙峡という名称は、いつ、誰が、どのよう  
にして名付けたのか分かっていません。地質・  
植物の調査研究や景勝地開発で功績を残した石  
原初太郎は、昭和5(1930)年に刊行した著  
書「御嶽昇仙峡と其奥」の中で、江戸時代の終わ  
りごろには、単に御岳新道と呼ばれていたのを  
明治20(1887)年に漢学者の三島毅らが「巨摩  
溪と名付けたと紹介しています。御岳昇仙峡の名  
称が初めて見られるのは、明治27(1894)年に  
出版された、地理学者である志賀重昂の「日本風  
景論」です。そして大正元(1912)年に発行さ  
れた、作家である松崎天民の「甲州見聞記」には  
「俗に御嶽新道といい、また、金溪とも昇仙峡と  
もいう」と書かれています。このように当時はま  
だ名称が定着していませんでした。

皇太子の行啓により御岳昇仙峡の  
名は定着し全国に広まった

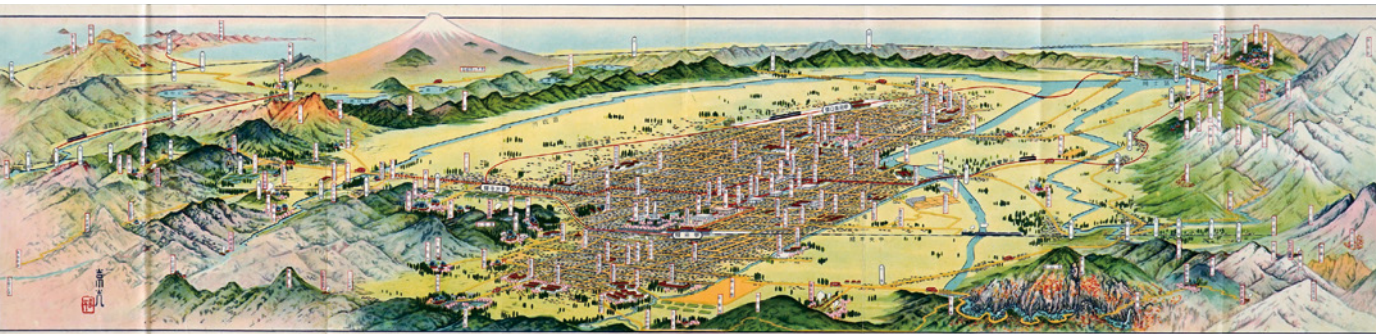
大正11(1922)年9月に「御岳に行啓を仰  
ぐべし 当局者に勸む」と題された社説が地元  
の新聞の一面に掲載されました。それは大正天  
皇の摂政を務めていた皇太子(後の昭和天皇)  
の行啓日程に昇仙峡が含まれていなかったた  
め、行啓を懇願してほしいといった内容のもの  
でした。そこには皇太子の観光探勝によって、



昭和初期の「御嶽昇仙峡絵葉書」(山梨県立博物館蔵)



石原初太郎「御嶽昇仙峡と其奥」  
(山梨県立博物館蔵)



「甲府市を中心とする甲斐大観」(山梨県立博物館蔵) 甲府盆地を中心とした観光名所案内。右下に昇仙峡が描かれている





仙娥滝

昇仙峡の名声が高まることへの期待も込められていたといえます。願いは現実のものとなり、10月に皇太子は昇仙峡に赴かれ、仙娥滝（せんがたき）を見ることができた昇仙橋の上で知事から説明を受けました。その後、皇太子は当時から名勝地として有名であった九州の耶馬溪（やまがき）に出し「予は九州大演習の際、耶馬溪を見たが、御岳の勝地には遠く及ばない。耶馬溪以上である。記者にこのように伝えよ」と侍従武官長に話しました。その喜ばしい出来事を報道した新聞には御岳昇仙峡の名称が大きく記されました。皇太子の行啓は、全国に御岳昇仙峡の素晴らしさを伝えるために極めて大きな効果を発揮し、行啓からわずか2カ月余りの12月16日には国の名勝への指定が決まり、翌年3月7日の官報で告示されています。東京や横浜方面から鉄道で訪れる観光客も大幅に増えていき、昇仙峡は観光地としての揺るぎない地位を築いていったのです。



新道開削工事でできた石門



昇仙橋

人々が生きた歴史が刻まれた  
魅力ある地

昇仙峡にはまだ広く知られていないことがあります。例えばロープウェイで登った先にある山の中には、胎内くぐりをしたと思われる穴など、修験者が修行の場としていた痕跡が今でも残っています。また山中にはたくさん古道があり、昔の人々がさまざまな形で交流を持ち、ルートを開拓していたことがうかがえます。その古道には独特な石造物も点在しています。残念ながら整備がされておらず、現時点では観光客が訪れることはできませんが、今年6月に登録された甲武信ユネスコエコパークのエリアになり、日本遺産への認定も目指している今、昇仙峡の知られざる文化遺産の再発見に期待が集まっています。

水晶が採掘されていた黒平はかつて有名な温泉地でもあり、商家の旦那衆が湯治場として通い、また、金峰山山頂にある金櫻神社の奥宮への参詣客が立ち寄るなど、にぎわいを見せていました。美しい自然は大切に守られ、清らかでおいしい水の産地としても知られています。

金峰山の麓と昇仙峡一帯は、修験者の歴史にとどまらず、炭やまきの生産、水晶、温泉の歴史などが、豊かな自然の中で刻まれた地域なのです。今もなお、いにしえの文化が息づく昇仙峡。そこには景勝地としてだけではなく、奥深い魅力があります。



# 四季折々に移り変わる 山梨の渓谷美



※10月の台風19号の影響でアクセスが困難な地域があります。

山梨は四方を急峻な山々に囲まれ、その豊かな自然を源とする清らかな水が流れる渓谷が各地にあります。芽吹きから新緑の初夏、緑深まる夏から紅葉の秋、そして雪をまとう冬。移ろう季節それぞれに描き出される渓谷を見に出掛けてみませんか。一度は訪れてみたい、山梨の渓谷をご紹介します。



## 板敷渓谷 (甲府市)

荒川ダムの先、奥昇仙峡にある渓谷。手つかずの自然が残る静かな渓谷には大小いくつもの滝がある。落差約10mの白髪滝を眺めてさらに奥に進むと落差約30mの大迫力の大滝が現れる。

### アクセス

JR甲府駅からバスで約50分  
昇仙峡滝上下車後、徒歩で約50分  
甲府昭和ICから車で約50分



## 尾白川渓谷 (北杜市)

甲斐駒ヶ岳を源とする尾白川は名水百選にも選ばれている。花こう岩の岩肌を流れ下る清流はエメラルド色に輝く。滝や淵も多く、雄大な自然の中で渓谷美を堪能できる。

### アクセス

JR小淵沢駅からタクシーで約20分  
須玉ICから車で約30分



## 昇仙峡 (甲府市・甲斐市)

甲府市内を流れる荒川の源流に広がり、昭和28(1953)年には国の特別名勝に指定されている。渓谷沿いに整備された遊歩道からは、覚円峰や仙娥滝をはじめとする日本有数の景観が楽しめる。平成の名水百選にも選ばれている。

### アクセス

JR甲府駅からバスで昇仙峡滝上まで約50分  
甲府昭和ICから車で約40分





## 早川渓谷 (早川町)

左右に切り立った山々の間を流れる早川。渓谷沿いは快適なドライブコースでもある。上流の奈良田湖近くには温泉施設もあり、山深く豊かな森林に囲まれて温泉と渓谷を満喫することができる。

### アクセス

JR身延駅からタクシーバスで約60分  
新倉下車後、徒歩で約30分  
下部温泉早川ICから車で約45分



## 西沢渓谷 (山梨市)

秩父多摩甲斐国立公園に位置し、日本の滝百選にも選ばれた名瀑・七ツ釜五段の滝をはじめ、いくつもの滝がある。豊かな森林環境に恵まれ、森林セラピー基地に認定されている。

### アクセス

JR山梨市駅からバスで約60分  
勝沼ICから車で約60分



## 大柳川渓谷 (富士川町)

甲斐源氏の祖・源義光の居城跡と伝えられる源氏山を源とする渓谷。渓谷内には「く」の字に曲がる全国的に珍しいつり橋や、観音様が宿るといわれる観音滝がある。

### アクセス

JR織沢口駅からタクシーで約20分  
増穂ICから車で約20分



## 川俣川渓谷 (北杜市)

八ヶ岳南麓を流れる渓谷で、遊歩道も整備されている。ぜひ訪れたいのが吐竜の滝。落差約10m、幅約15mの滝は、岩の間からまるで絹糸のように水が流れ落ち、神秘的な雰囲気。

### アクセス

JR甲斐大泉駅または清里駅からタクシーで約10分、下車後、徒歩で約15分  
須玉ICから車で約30分、駐車場から徒歩で約15分

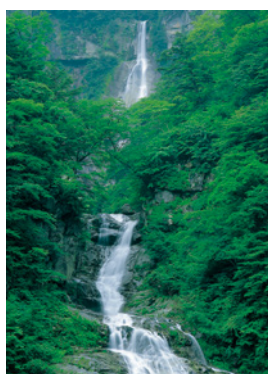


## 戸川渓谷 (富士川町)

三段の滝や妙蓮の滝など「戸川48滝」と呼ばれる大小48のさまざまな表情の滝が見られる渓谷。ブナやカエデ、クスギなどの紅葉も美しく、近くには秘湯・赤石温泉もある。

### アクセス

JR織沢口駅からタクシーで約30分  
増穂ICから車で約30分



## 石空川渓谷 (北杜市)

鳳凰三山の一つ・地藏ヶ岳を源とする石空川の渓谷。上流の標高1400m付近には、日本の滝百選にも選ばれた、東日本最大の落差約121mを誇る精進ヶ滝がある。壮大な名瀑と紅葉は絶景。

### アクセス

JR日野春駅からタクシーで約25分  
須玉ICから車で約30分



## 道志渓谷 (道志村)

山伏峠を源とする道志川の渓谷。日本有数の清流はアユやイワナ、ヤマメなどの宝庫としても知られている。レジャー施設も点在中なので、渓谷美を楽しみながら遊ぶことができる。

### アクセス

富士急行都留市駅からタクシーで約30分  
都留ICまたは山中湖ICから車で約30分



## 日川渓谷 (甲州市)

三段に連なる落合三つの滝や竜門の滝などが点在する渓谷には巨岩もあり、春にはツツジ、秋には紅葉が彩りを添える。遊歩道が整備され、ゆったりと散策を楽しむことができる。

### アクセス

JR甲斐大和駅からバスで約10分  
勝沼ICから車で約15分





昇仙峡ロープウェイ

# 日本屈指の溪谷美 昇仙峡を後世に 伝えていくために

「トテ馬車が溪谷を行く古き良き時代  
ゆったりと昇仙峡を楽しんでいた人々」

「昇仙峡は日本を代表する溪谷美を誇る景勝地ですが、昭和時代の全盛期と比べると観光客の数は減少しています。山梨県民の誰もが知っている昇仙峡も、実は全国的にみると若い世代での知名度が低いのが現状です。」

そこで地元自治体や観光協会が「丸」となって、





全国の皆さんに昇仙峡を知っていただくため、日本遺産への認定を目指すなど、訪れてもらえる観光地づくりに取り組んでいます。昇仙峡を観光地として再興していくためには、今ある良いところは継承し、そこに新しい発想を取り入れながら、これからの観光のあり方を見つけていく必要があります。全盛期の頃、観光客は昇仙峡の入り口である長潭橋までバスで来ていました。そこから渓谷沿いの道を観光遊覧トテ馬車に乗ったり、歩いたりして四季折々の風景に彩られる渓谷を眺めながら、上流にある仙娥滝を目指しました。道すがら昇仙峡を代表する覚円峰や溪流に点在する奇岩などを楽しみ、観光客は一日ゆつくりと滞在していたものです。しかしマイカーで滝上まで行けるようになると、風情あるトテ馬車の数も減り、下流部は衰退していききました。今後は、見どころも多い下流部にも訪れてもらえるようなプランを考えていきたいです」

「心に残る思い出に

本物の魅力を伝える観光地を目指して

「昇仙峡を訪れた方々に、この地の魅力を満喫していただくため、私たちも改めて昇仙峡の歴史や自然の素晴らしさを見つめ直し、散策のモデルコースをつくるなど、自然と調和した楽しみ方を提案しています。昇仙峡が甲武信ユネスコエコパークに含まれていることも踏まえ、自然や食、アクティビティー



新緑の覚円峰



2年前に運行を終了したトテ馬車。最盛期には30台以上が活躍



ロープウェイパノラマ台駅から行ける弥三郎岳から望む富士山



昇仙峡観光協会

会長 芦澤 卓夫 さん

昇仙峡ロープウェイ株式会社 常務取締役

「昇仙峡は春夏秋冬いろいろな表情を見せてくれます。特に私は、新緑の頃が好きですね。若葉に彩られた覚円峰を見ると元気が出てきます」と芦澤さん

も充実させ、子どもたちにも昇仙峡でいろいろな経験をしてもらえようと思います。大人になつてから、幼い頃、昇仙峡で遊んだことを思い出して、今度は自分の子を連れて来てくれる、そんな観光地を目指しています。昇仙峡は甲府駅から車で30分ほど、またバスでも行けるエリアですが、都会では味わえない自然の恵みに溢れた非日常の心地よさがあります。さらに仙娥滝より奥には、私たちが奥昇仙峡と呼んでいる板敷渓谷や荒川ダムなど、あまり知られていない見どころもあります。観光というと昨今インバウンドが注目されがちですが、私は、まず日本人の皆さんにこそ訪れていただき、日本人の感性に訴える美しさに満ちた、歴史ある昇仙峡を楽しんでもらいたいです。私たちも行き届いたおもてなしを心掛けながら、日本が誇る景勝地が後世に受け継がれていくことを願っています」





## 昇仙峡の自然に包まれて 山梨の食を楽しむ癒やしのカフェ

カフェ テロワール | 代表 飯嶋 晃代 さん

カフェ テロワールは、和テイストで落ち着いた雰囲気な漂うお店。代表の飯嶋晃代さんは、フルーツをはじめ山梨県産の食材を味わってほしいと、工夫を凝らしたメニューを心を込めて提供しています。そのスタートは山梨を魅力ある場所にしたという思いからだったといいます。

### 山梨をもっとすてきにしたいたいから 観光地 昇仙峡で山梨の魅力を発信

「結婚して子どもを授かる前までは、実は山梨にそれほど魅力を感じていなかったんです。子育てをする中で、子どもが大学進学などで山梨を離れても、また帰ってきたいと思えるすてきな山梨にしたいと考えるようになりました。そこで観光に関するものであれば経験のある私にできることがあるかもしれないと思い、活動を始めたんです。武田信玄ゆかりの地や温泉、休耕田の活用などに絡めたイベントを企画、運営する事に携わった後、縁あって昇仙峡でお店を開くことができました。山梨の観光地といえば昇仙峡は外せない存在です。ここでお店を営業すれば山梨の観光を盛り上げることにつながると考え、迷いはありましたが、思い切ってやってみることにしましたんです。

当店は今年4年目を迎えましたが、お店を開くまでは、家でパンを焼いたり、子どもにおやつを作ったりするだけの素人でした。だからこそ、遊び心があるメニューが思い付くのかなと思っていきます」

山梨のおいしいものを食べて  
思い出をつくってほしい

「元々、少し傷があるだけで出荷できない果物を何かに活用したいと考えていました。そこで、それを農家さんから買い取って、一年を通して果物を出しできるように、旬の時期にたくさん煮て保存することにしたんです。そして考案したのが、本来の甘さや食感を生かし丁寧に煮込んだ果物を使ったピザです。他にも昇仙峡産のワラビを使ったピザや、甲州ワインビーフを煮込んだハッシュドビーフなど、お食事のメニューも充実させています。

昇仙峡の四季折々の自然の素晴らしさを知ってもらえるよう情報発信し、多くの観光客の皆さんに訪れてもらいたいです。ぜひお店ですてきな思い出をつくりに来てください」



Café Terroir  
カフェ テロワール

甲府市猪狩町479  
TEL.070-3222-8672  
営業時間：10:00～17:00  
※不定休あり









## 伝統の技を受け継ぎ 宝飾業界の発展に 貢献したい

株式会社シミズ貴石  
宝石研磨職人

大城 かん奈さん

移住先／甲府市

静岡県浜松市出身の大城かん奈さんは、大学卒業後、東京で映画などの小道具の仕事に就きました。その中でも、女優さんが身に着けるジュエリーなどを借りに行つた際に、職人さんがものを作り上げる姿に感動し、忘れることができず、自分もそのような職人になりたいと思つたことが、宝飾業界に興味を持ったきっかけだつたといひます。

「仕事を辞めて、宝飾の勉強を一から始めようと思ひ学校を探していたところ、山梨ではジュエリー産業がとても盛んであることを知り、山梨県立宝石美術専門学校への入学を決めました。現在勤務しているシミズ貴石の清水幸雄社長は、この学校で宝石研磨の非常勤講師を務めていましたが、在学中はあまり接点を持つことがありませんでした。ですが卒業後しばらくしてから、こちらで働かせてもらえることになったんです。宝石研磨を志す学生は多いものの、受け皿がなく断念していく人もいる中で、職人としてジュエリー業に携われることは、本当にありがたいことで、一生懸命修業に励まなければいけないと常に思っています」

大城さんがさらなる技術習得を目指して修業してい



山梨への移住・就職相談はこちらへ

## やまなしUターン就職支援センター

8月1日、JR東京駅前にオープン。

Uターン就職に関する相談、キャリアカウンセリングをします。移住に関する情報提供なども行っています。

東京都千代田区大手町2-6-2

パソナグループ JOB HUB SQUARE 3F

TEL.03-6734-1092 E-mail:yamanashi-UI@pasona.co.jp

利用時間:月~土曜日 11:00~19:00(土曜日は第2・第4週のみ)

## やまなし暮らし支援センター

山梨への移住や就職について、ワンストップでお手伝い。移住セミナーや各種イベントも開催しています。

東京都千代田区有楽町2-10-1

東京交通会館8F NPOふるさと回帰支援センター内

TEL.03-6273-4306 E-mail:yamanashi@furusatokaiki.net

利用時間:水~日曜日 10:00~18:00



「水晶が採掘されていた昇仙峡にも興味があり、石に携わる者として、火の玉、水の玉という水晶が祭られている金櫻神社にもお参りに行きました」と大城さん



水晶のオブジェ(上)

大城さんが手ずりしたルース(裸石)(下) ジュエリーにも仕立てられる



「現代の名工」であり黄綬褒章も授与された清水社長も「手ずり」という伝統を受け継いでくれる若い女性の職人さんが現れたことはうれしいですね。大城さんはセンスもあり、技術も高めていますので、この伝統を後世に伝えてほしいです」とまな弟子の活躍に期待を寄せている



清水社長が確立した「180面体桔梗カット」に加工した水晶の前に笑顔を見せる大城さん

職人を目指します」

るの、甲府が水晶の産地として栄えていた時代からあった「手ずり」という伝統ある研磨技法です。

「宝石研磨は主にファセッターという道具に石を固定して行いますが、甲府に伝わる『手ずり』は石を手を持ち、回転する研磨盤に当て、指先の感覚だけで角度を付け削っていく技法です。指先の感覚を養うのに最低でも10年かかり、やっとスタートラインに立てるという厳しい世界です。私は入社して6年と、まだまだ未熟ですが、社長は50年もの長い職人歴と素晴らしい技術を持ちながらも、柔軟な姿勢で私のやることも受け止めてくれます。人間としても尊敬できる師匠の下で働くことができ、これだけの環境を与えてもらっていることに本当に感謝しています。

現在『手ずり』を受け継ぐ宝石研磨職人は、10人もいないといわれています。中でも女性は私だけのようです。この技術をしっかり習得して、将来は女性ならではの感性を生かしたジュエリーを提案していきたいです。そして後世に技術を継承し、宝飾業界に貢献できる職人を目指します」



街道の駅からの小さな旅

# てくてく 甲斐の国

—第17駅—甲府駅(昇仙峡編)



甲府駅からバスに乗り  
「昇仙峡滝上」に向かえば、標高が上がるほどに  
周囲には豊かな自然が溢れ、見事な景観が広がります。  
やがて山中に現れる昇仙峡は、  
まるで水墨画に描かれているような幽玄の世界。  
自然が長い時間をかけて作り出した絶景と、  
そこに息づく歴史や文化を感じながらてくてくと…。



昇仙峡へは、JR甲府駅からグリーンライン経由昇仙峡行きバスに乗り、昇仙峡滝上バス停にて下車

散策コース



01

## 昇仙峡ロープウェイ

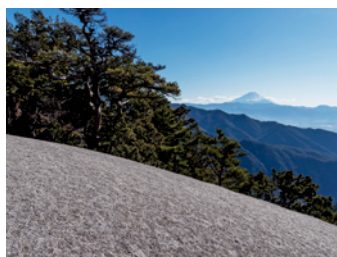
昭和39(1964)年に運行を開始した長い歴史があるロープウェイ。標高1058メートルの山頂のバラマ台駅までは約5分の空中散歩。窓からは四季折々の自然が眺められる。



02

## 弥三郎岳

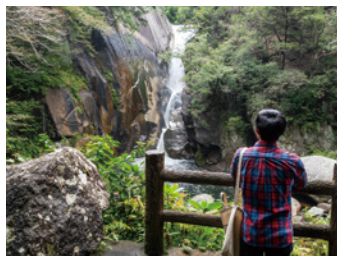
ロープウェイ山頂のバラマ台駅から徒歩約20分。弥三郎岳の山頂からは富士山、南アルプス、金峰山などの山々が一望でき、360度の絶景が楽しめる。



03

## 仙娥滝

花こう岩の岩肌を削るように落下する落差約30メートルの滝。仙娥とは中国神話に登場する月に行った女性嫦娥のこと。名前から神秘的なイメージが感じられる。



04

## 石門

仙娥滝を過ぎると間もなく見え始める、巨大な花こう岩が天然のアーチ状になっている石門。アーチの先端部がわずかに離れているが、絶妙なバランスを保っている。



05

覚円峰  
(夢の松島)

覚円峰の名称は、その昔、僧侶覚円が頂上へ修行したこと由来。遊歩道の途中にある撮影スポット「夢の松島」から見る直立約180メートルの覚円峰は大迫力。



06

## 羅漢寺

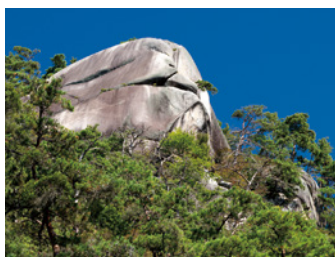
弘法大師空海の作といわれる岩正五百大阿羅漢の木彫像が安置されている。154体が現存し、像底には応永30(1423)年の墨書がある阿弥陀如来坐像も安置されている。



07

渓谷沿いの  
奇岩・奇石

深谷沿いの遊歩道からは、数々の奇岩・奇石を見ることができ、亀石、オウセイ石、大砲岩など名前もユニーク。イメージを膨らませながら探るのが楽しい。(写真は猿石)



08

## 長潭橋

大正14(1925)年完成の橋。昇仙峡の玄関口であり観光の歴史を物語る風情がある。戦前に完成した県内の三つのコンクリートアーチ道路橋の一つ。土木遺産に指定されている。



てくてく  
歩きの  
途中で...



東京から昇仙峡の散策に来ていたご夫妻に会いました。旅行が大好きで、山梨には何度か来ているというお二人。「昇仙峡は初めてですが、私は川の流れる音や深谷の風景が好きなので大満足です。明日は金櫻神社や荒川ダム方面を見て回ろうと思っています。お土産にはワインを買おうかな」(ご主人)「以前、主人が甲府から水晶を買ってきてくれたことがあるんですよ」(奥さま)と優しい笑顔で話してくれました。



てくてく  
甲斐の国

# 昇仙峡 長潭橋

この絶景の中に身を置き、いま昇仙峡の旅が始まる







特別名勝「御岳昇仙峡」。その美しき渓谷は、長潭橋から始まる。全盛期には、渓谷に沿って全長約5kmの道りを多くの観光客が仙娥滝を目指して歩き、観光遊覧トテ馬車が、ひづめの音を響かせていた。現在の昇仙峡は仙娥滝周辺が栄え、長潭橋には、かつてのにぎわいはないが、大正14(1925)年の完成以来、この地の歴史を見守ってきた県内最古のコンクリートアーチ道路橋は、静かな威厳を感じさせてくれる。四季折々の自然が織りなす風景に奥行きを与え、見る人の心に大切な何かを語りかけてくるような、この橋から始まる昇仙峡の旅。今こそ訪れてみたい。





山梨へは中央線の特急列車でどうぞ!

**えきねっと**なら窓口に並ばずお先にお申込みOK!  
ご乗車日の **1ヶ月 + 1週間前** からお申込みいただけます!

※実際の座席手配は乗車日の1ヶ月前(午前10時)からとなります。

会員登録  
無料

詳しくはホームページをご覧ください。

**えきねっと** 検索

[www.eki-net.com](http://www.eki-net.com)

中央線特急で  
**えきねっと チケットレスサービス**

指定席  
特急料金より **一律100円割引**

(子どもは50円割引) ※普通車は事前料金より割引

POINT 1

パソコン・スマートフォンから  
ラクラク簡単予約

(一部列車を除く)

POINT 2

指定席発売開始日のさらに  
1週間前から申込可能

※実際の座席手配は乗車日の1ヶ月前の午前10時からとなります。  
満席等の理由により座席をご用意できない場合があります。

POINT 3

指定席券売機で  
スムーズにお受取り

※一部列車や一部区間は「えきねっと」でお取扱いしておりません。※満席等の理由により座席をご用意できない場合があります。  
※この情報は2019年10月現在のものです。最新の情報はホームページでご確認ください。

JR東日本 八王子支社 公式SNSはじめました。

モモずぎんと発見! やまなしの旅

Facebook



Instagram



JRの山梨キャラクター  
「モモずぎん」

山梨 **てくてく** *TeKu TeKu*  
VOL.17 | 2019 WINTER

令和元年11月1日[季刊]  
第17巻 冬号



やまなし森の印刷紙  
この印刷紙には、  
FSC®森林管理認証を  
取得した山梨県有林からの  
木材が使用されています。

山梨県

山梨県広聴広報課 発行 〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1  
TEL. 055-223-1339 FAX. 055-223-1525 制作 山梨日日新聞社